

第136回 病態生化学セミナー

日時：令和1年12月2日（月曜日）午後6時00分～

場所：医学部図書館3階 視聴覚室

演題：がんのT細胞療法と腫瘍微小環境

Adoptive T cell therapy and tumor microenvironment

演者：池田 裕明 先生

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 腫瘍医学分野 教授

近年、免疫チェックポイント阻害療法が多くの難治性がんにも有効な承認薬となり、また2019年には遺伝子改変T細胞の輸注療法が白血病やリンパ腫の治療薬として我が国で承認され、がん免疫療法に注目が集まっている。

我々は、進行期の固形癌や造血器腫瘍の患者を対象に、がん抗原に対するTCR遺伝子を導入したリンパ球の輸注療法、いわゆるTCR-T療法の臨床試験、医師主導治験を多施設共同試験として実施中である。最近滑膜肉腫の患者において顕著な腫瘍縮小効果を認めつつある。

大きく期待されるがん免疫療法であるが、これまでのところ有効性を示さない患者も多い。がん免疫療法の有効性には腫瘍微小環境が大きく関与していることが示唆されているが、我々は腫瘍内のマクロファージが腫瘍微小環境に重要であること、腫瘍内マクロファージへの特異的なDDSシステムを用いた抗原の送達で腫瘍内マクロファージを活性化し、がん免疫療法の有効性を向上させることを見出している。

本セミナーではT細胞輸注療法を中心に最近のがん免疫療法の現状と今後の展望を概観すると共に、我々が現在開発を進める腫瘍内微小環境の改善を伴うT細胞療法についても紹介し、将来の展望について議論したい。

【池田 裕明】

連絡先：

浦野 健

島根大学 医学部 病態生化学

TEL 0853-20-2126

E-mail turano@med.shimane-u.ac.jp